アスベスト被害を伝えるネットワーク
…絆から縁へ (vol,1)　平成 31 年 4 月 30 日

「アスベスト被害を伝えるネットワーク」誕生のご挨拶

平成１６年２月、アスベストが原因で病気になり苦しんでいた人々が出会い、支え合い、大きなうねりとなり社会を動かしてきました。

そのうねりは国や企業さえも動かしてきました。そしてその人たちは、ひたすら「自分たちのような被害者を出してはいけない」との信念を持ち、失った大切な人の志を受け継ぎ、貴重な時間をささげてきました。そのようにして繋がってきたもの…それは「絆」でした。

当初は求めあう心が出会い「絆」として結ばれて、苦しみを分かち合い、支え合って生きてきました。そして１５年経ったいま、それは結ばずとも互いに引き合う「縁」と変わってきました。（写真はマスコットの「縁フクロウ」）

絆は「ほだし」とも読みます。もともとは馬などの動物をつないでおく綱のことをいいます。動物が離れないようつなぎとめるという意味が家族や夫婦、子どもなど、人同士の密接な結びつきをさすようになったとされています。この言葉のように、アスベストによって被害を受けた人々は、その過酷な運命を共有することで互いに慰め合い、励まし合って絆を強めていったのです。そしていま人々はその結びつきを「社会に係わりあう縁」として「ネットワーク」を作り、広く繋げることにいたしました。

> 社縁（しゃえん）
> 友だちの関係はさまざまな人間関係のなかで独特の位置を占めている。
> 人間関係には，親子，兄弟姉妹といった血縁関係，向う三軒両隣から地域共同体にいたる地縁関係，そしてこのいずれでもない社縁関係がある。
> ある時点で共通の関心や利害をもつ人との関係に始まり，同郷者の会，戦友会，遺族会，さらに各種の被害者同盟など，過去の経歴，体験ないし歴史を共有する間柄の人たちとの関係を含む。

アスベスト被害を防ぐためには、私たちが「存在」することが一番大事なことです。楽しく語り合う時間を作りながらも、同時に、未来に向かっての語りかけが必要です。

それこそが、私たちの愛する人が遺して逝った「伝言」であり、愛する人が生きてきた証だと思います。

出会いから 15 年…この重みを感じながら平成最後の日、以下のことを提案しました。

１・「アスベスト被害を伝えるネットワーク」設立（略して「ネット 15」）

２・詳細は以下の通り

代表者：古川和子

賛同者：公開しない

会　費：なし

活　動：不定期的な集い、情報誌の発行(メール等)

活動主旨：アスベスト被害者または、被害予防対策の当事者として情報交換

その他：他団体への働き掛けも行うがボランティアとして活動

ボランティア活動の３つの原則

・やりたい人がやる、やりたくない人はやらない

・やりたい人は、やりたくない人を強制しない

・やりたくない人は、やりたい人の足を引っ張らない

以上、簡単ですが「アスベスト被害を伝えるネットワーク」誕生のご案内・ご挨拶とさせていただきます。皆さまのご指導を頂き、ささやかでもいいからアスベスト被害者の救済と予防対策などに貢献したいと願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

「アトリエ泉南石綿の館」を訪問しました

４月２５日、Ｈさんと「泉南石綿アトリエの館」を訪問しました。 故梶本政治医師の遺品がたくさん展示してありました。場所は、「泉南石綿の碑」のお隣です。

突然の訪問に館長の梶本さんはとても喜んで下さいました。

このアトリエには、故梶本医師の魂が今も力強く存在していると感じました。１９５０年頃から石綿の危険性に気付き、各方面に発信してきた先人は今、現在の私たちと後世に向かって訴えています。

私はアトリエを訪問して今まで感じていた「？？」という疑問が解けました。梶本先生は「地域の医師」だけではなく「研究者」だったのです。 研究者としての研ぎ澄まされた感性で、石綿の危険性に気付き、訴えてこられたのです。そこには研究者としての責務と、情熱と、世間に理解されない焦りや孤独があったと思います。そのような心がたくさん詰まった場所でした。

遺品の顕微鏡を眺めながら「孤高の研究者」のイメージが湧いてきました。しかしお人柄が滲み出ているような「タオル」を、自宅で眺めているととても暖かい気持ちになりました。先生の遺志をしっかりと受け継いで、アトリエ建設に関わったお身内の方たちは素晴らしいと思います。アトリエに展示されている、泉南石綿国賠原告の方たちの闘いの記録は、梶本先生の勇気ある行動記録と共に後世に重要なメッセージを発信し続けることでしょう。その後、近所にある見事な「藤まつり」も堪能しました。そして…なんと！帰路につこうとすると中村千恵子さんご夫妻が！ 感激の対面でした。「しまった！玄関の写真を撮るの忘れていた！」と思ったら、中村千恵子さんのブログに！ちゃっかりと拝借させて頂きました。

梶本先生はクボタ旧神崎工場周辺の被害も予測していたのでしょうか。

アスベスト被害を伝えるネットワーク